

「日本のこれから」(2007年8月15日放送)を視聴した感想

醍醐 聡

番組を視た感想・意見です。私自身は憲法9条擁護、集団的自衛権否定論者です。

①数名の「有識者」と称される人々の座談会形式が多いなかで、意見が異なる市民多数をスタジオに招き、ぶっつけで議論を交わす形式を採用したことに好感を持ちました。参加者はもとより、視聴者も自分と異なる意見に触れる機会になったと思います。これが今回の番組の最大の収穫といってよいと思いました。司会者も過熱しがちな議論を仕切りすぎず、放置せず、公正に進行されたと思います。

②今日、9条のあり様は日米の同盟関係の現実を直視すること抜きに議論できないと思いながら、前半の議論を聞いていたところ、後半で集団的自衛権と絡めてこの点が取り上げられたのは、的を得た企画だったと感じました。

③スタジオでの議論やこのHPに掲載された、9条改定論あるいは集団的自衛権行使容認論の人たちの意見を見聞して共通する危うさを感じました。それは、「自分の国を自分で守るための軍事力を持つのは当たり前」、「友達が殴られているときに助けられない人間は人道にもとる」などといった、あまりにナイーブな議論が無抵抗に受け売りされていることに対してです。なぜ危ういかというと、「国を守る」とはどういう意味なのか不問にされていること、集団的自衛権の行使を「殴られた友達を助けるべきかどうか」といった、あまりに単純化された議論に置きかえる粗雑な議論がまかり通っている点です。特殊な私益(権益)が「国益」の名の下に主張されることが多いのと同様、抽象的な「国を守る」というフレーズが市民の生命・財産を守ること、近隣諸国の平和を守ることとどういう関係にあるのか、今の日米同盟関係の下では、集団的自衛権で守ろうとするものは日本の市民の安全ではなくアメリカの権益であること、軍事力を持つことによってかえって日本の市民のリスクが高まるという現実が直視されないまま、国を守る軍隊をもつべきかどうかというマジックに取り込まれている人がいかに多いかを知らされました。

④このような議論を視ていて、NHKも「討論型世論調査」(DOP)を試みてはどうかと感じました。詳しくは、米倉律「公共放送による『討論型世論調査』の試み」(『放送研究と調査』NHK放送文化研究所刊、2006年7月)で紹介されていますが、要点は調査対象者に討論テーマに関する情報を前もって提供し、グループ討論や専門家による討論を経たうえで討論実施前と後で意見分布の違いを確かめるというものです。

これは世論調査の方法としてばかりでなく、スタジオでの討論にも応用できると思います。つまり、討論参加予定者に前もって討論テーマに関する情報を提供したうえで、集団討論を行うというやり方です。今回の番組でも途中の「世界の中でみた日本」の項で、アメリカ軍の後方支援として日本の自衛隊が組み込まれている現実、海外派兵が自衛隊の本来任務に格上げされ、自衛隊の中に中央即応団が結成されて海外派遣への即応体制が整えられつつある実態が紹介されたのは望ましいことと思いました。しかし、もう少し時間をかけて情報を提供し(ただし、結論誘導的な情報にならないことが重要)、現実に通じたうえでの意見交換を交わす工夫が必要と思いました。

「意見の違いの相当部分は事実認識の(精粗の)違いに帰着する」、「意見の幅を狭める何よりの方法は事実認識の共有に努めることである」というのが私の感想です。